

つれづれ

平成30年2月27日(火)

感謝は超一流を育てる



近代オリンピックの父は、クーベルタン男爵（フランス）です。1896年、第1回大会は古代オリンピックが開催されたギリシャのアテネで開催されました。冬期オリンピックは、1924年から始まっています。彼の考えるオリンピックとは「スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する」ことであり、オリンピックを「平和の祭典」と位置づけました。その理念は脈々と受け継がれています。

17日間の熱戦が繰り広げられた平昌オリンピックが閉幕しました。開幕前は、北朝鮮をめぐる国際問題や会場の不備などの不安報道がありましたが、無事に閉幕できたことは何よりです。今回のオリンピックを契機に、北朝鮮をめぐる問題が解決の方向に向かってくれることを願います。

そんな中、各国のトップアスリートが、五輪の頂点を目指して戦っている姿に多くの人が感動を覚えたことでしょう。日本チームも大いに健闘しました。日本選手団は、金4個、銀5個、銅4個のメダルを獲得しました。これは日本史上最多獲得数となりました。この偉大な結果に結びついた要因は何だったのでしょうか。

もちろん、それぞれの選手が、血のにじむような努力をしてきたことは言うまでもありません。それに加えて、メダルを獲得した多くの選手が口にした言葉がありました。それは「感謝」です。金メダル2個を獲得したスピードスケートの高木菜那選手は、帰国時の記者会見で次のように述べました。

「今まで支えてくれた方々や、応援してくれていた方々の応援があったからこそ、自分の力になって最後まで滑り抜くことが出来たんだと思います。……」

他の多くの選手も同様に感謝の言葉を述べていました。このことも、偉大な結果の原動力になっていることは間違いありません。感謝の心は超一流を育てる。3月9日開幕のパラリンピックにも期待したいと思います。

<保護者の皆様へ>

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【大阪市教育委員会 天下茶屋中学校】で検索



QR code

天下茶屋中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j762750>